

井ヶ谷地区

井ヶ谷地区は東側に丘陵がひろがり、西側は平地からなる地域である。この地はもともと池沼が多く、「いぐさ」が自生していたことから「藪が谷」と呼んだとされ現在の地名が起きたといわれる。応永16年(1409)の「熊野権那職譲状書」に「重原本郷井加屋にしさかい」とあるのが、井ヶ谷の地名の初出である。

丘陵地を中心に井ヶ谷古窯群がひろがっている。万延2年(1861)刈谷藩主土井利善が井ヶ谷山で兎狩りをしたとの記録もある。

①小堤西池

刈谷市北端にある面積は20,330㎡の池。カキツバタをはじめ水湿地固有の植物が数多く自生している。毎年5月中・下旬にはカキツバタが咲く。東側の丘陵地とともに国の天然記念物に指定されている。京都市大田の沢、鳥取県岩美町の唐川と並ぶ日本三大カキツバタ自生地の一つ。



②深興寺

永正7年(1510)尾張の豪族酒井文助利貞(酒井慶之丞ともある)が鳴海瑞泉寺昌覚周久大和尚に帰依し、井ヶ谷の広沢に和尚を請して開創した。永禄3年(1560)今川氏の上洛戦のため戦火にあい、諸堂ごとく焼失。酒井家3代の酒井利知が現在地に再建し、現在に至っている。



③八幡宮

井ヶ谷の氏神、菅田別命(ほむだわけのみこと)をまつ。



④洲原公園

洲原池と洲原神社の間にある台地を整備して、昭和44年に洲原公園ができた。周囲に550本の桜が植えられ、芝生広場がある。



⑤洲原池

刈谷藩主土井利徳の頃(1767~1787)開鑿されたといわれるが、確かなことはわからない。面積は16ha、最も深い所で5mの灌漑用の溜池である。昔は新池といわれていたが、洲原神社をまつようになつて洲原池といわれるようになったとされる。



⑥井ヶ谷古窯群

井ヶ谷古窯群は、猿投山西南麓古窯跡群の一つで、77基が発見されているが、そのうち31基が市の史跡に指定されている。井ヶ谷町の洲原池・大池・広沢池・牛池などの周辺に分布し、碧海台地より古くて一段高い挙母台地にひろがっている。この地域は瀬戸陶土層に連なる良質の粘土を含んでいる。

井ヶ谷窯の最も古い時期の窯は8世紀後半で、9世紀前半頃最盛期を迎え、9世紀後半から10世紀にかけて衰退していった。

最盛期の井ヶ谷窯で焼かれたのは主に灰釉陶器で、長頸壺、浄瓶、水瓶、平瓶などの特殊な器のほか、碗などの日常食器も焼かれていた。出土品は愛知教育大学附属図書館と刈谷市郷土資料館に保管されている。

○愛知教育大学

昭和24年5月、新学制の発足に伴い、愛知第一師範学校、愛知第二師範学校、愛知青年師範学校を包括、愛知学芸大学として創立された。昭和41年愛知教育大学と改称、昭和45年に刈谷市へ移転した。附属図書館には、井ヶ谷古窯群から出土した遺物が保管されており、一部展示されている。

○松根4号窯

井ヶ谷古窯群の1つで愛知教育大学内にある。大部分は破壊されているが、古窯であることがわかるように柵で窯の断面が囲われている。

④遊心寺

寛正2年(1461)開創とされる。往古は天台宗であったが、元龜2年(1571)織田信長によって焼き打ちされた比叡山から修行中の大円阿闍梨が「毘沙門天王」を密かに運び出し、のち井ヶ谷の自然院にまつた。その後改宗して浄土宗遊心寺となった。



毘沙門堂に安置してある毘沙門天王像は市指定文化財。ぼっくり寺として知られる。

⑤見性寺

永享10年(1438)鳴海町瑞泉寺三世外乗空和尚によって開創され、その後一時衰微したが、安永2年法雲円海和尚によって中興され、月舟宗胡禅師の法系によって傳承されている。伽藍は古い建物が多く、特に鐘樓堂は近辺にまれな袴腰である。



⑥洲原神社

菊理比咩命(くくりひめのみかみ)、蛭子命(ひるこのみこと)、大己貴命(おおなむちのみこと)、大日靈貴尊(おおひるめのみこと)、軻遇突智命(かぐつちのみこと)をまつ。洲原池の守り神として建てられたといわれる。創立については諸説あり、①加賀白山開創者と伝えられる泰澄による創立とされる説(8C頃)、②見性寺住持華嚴による創立とされる説(18C頃)、③土井利徳による創立とされる説、④明暦元年(1655)に創建したという説、がある。環堤の決壊に悩まれた住民が、五穀豊穰・雨乞の神として名高い美濃国洲原神社の分社として創建したのが始まりといわれるがどの説も確証を得ることは難しい。



刈谷市

歴史の小徑

〔井ヶ谷〕

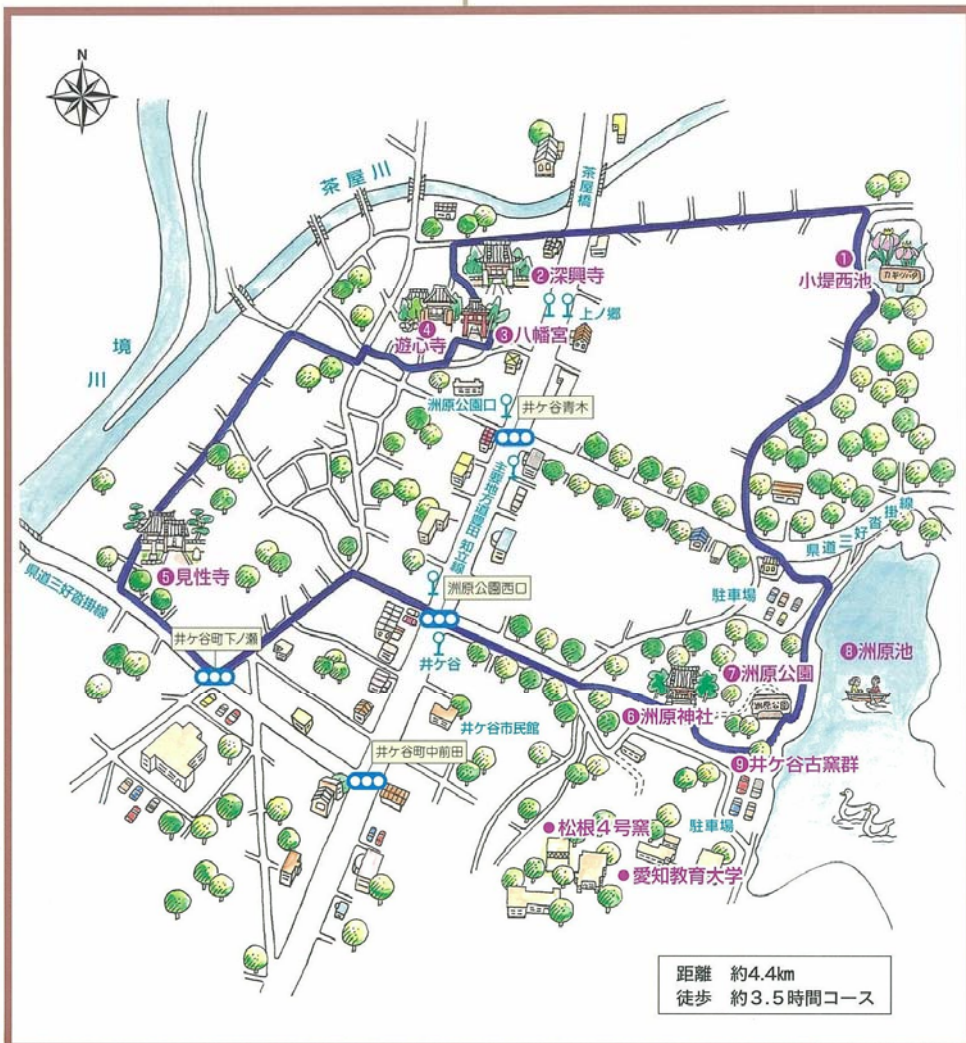


遊心寺と毘沙門天王像

文化財愛護シンボルマーク



ひろげた両方の手のひらのパターンによって、日本建築の斗拱(ますぐみ)のイメージを表わし、これを三つ重ねることにより、文化財という民族の遺産を、過去、現在、未来にわたり、伝承していく愛護精神を表徴している。



井ヶ谷古窯群

井ヶ谷古窯群は、猿投山西南麓古窯跡群の一つで、77基が発見されているが、そのうち31基が市の史跡に指定されている。井ヶ谷町の洲原池・大池・広沢池・牛池などの周辺に分布し、碧海台地より古く一段高い拳母台地にひろがっている。この地域は瀬戸陶土層に連なる良質の粘土を含んでいる。

井ヶ谷窯の最も古い時期の窯は8世紀後半で、9世紀前半頃最盛期を迎え、9世紀後半から10世紀にかけて衰退していった。

最盛期の井ヶ谷窯で焼かれたのは主に灰釉陶器で、長頸壺、浄瓶、平瓶など仏具に用いられる金属器を模した特殊な器のほか、碗などの日常食器も焼かれていた。出土品は愛知教育大学附属図書館と刈谷市郷土資料館に保管されている。

番号	遺跡名	時代
1	西石根1号窯	平安
2	西石根2号窯	鎌倉
3	西石根3号窯	鎌倉
4	西石根4号窯	鎌倉
5	西石根5号窯	鎌倉
6	西石根6号窯	鎌倉
7	西石根7号窯	奈良
8	西石根8号窯	鎌倉
9	西石根9号窯	鎌倉
10	石根古窯	平安
11	洲原1号窯	平安
12	洲原2号窯	平安
13	洲原3号窯	平安
14	洲原4号窯	平安
15	洲原5号窯	平安
16	洲原6号窯	平安
17	洲原7号窯	平安
18	洲原8号窯	平安
19	松ヶ崎1号窯	平安
20	松ヶ崎2号窯	平安
21	松ヶ崎3号窯	平安
22	松ヶ崎4号窯	平安
23	松ヶ崎5号窯	平安
24	寺山1号窯	平安
25	寺山下古窯	平安
26	灰山古窯	平安
27	庄司1号窯	平安
28	丸岡古窯	平安
29	孫六1号窯	奈良
30	孫六2号窯	平安
31	孫六3号窯	平安



小堤西池のカキツバタ群落

小堤西池は刈谷市最北部の井ヶ谷町にある面積20,330㎡の池で、京都・大田の沢、鳥取・岩美町の唐川と並び国の天然記念物に指定された日本三大カキツバタ自生地の一つ。

小堤西池にはカキツバタをはじめ水生・湿生の植物が数多く自生しており、昭和13年に「小堤西池のカキツバタ群落」として国の天然記念物に指定された。その後、池の水源として重要な役割を果たしている東側の丘陵地約43,000㎡も追加指定をされた。また、昭和53年3月には県の自然環境保全地域にも指定されている。

以前より「小堤西池のカキツバタを守る会」が池の除草作業や東側丘陵地の竹の伐採をはじめとする保護活動を継続的に行っているほか、専門家による「小堤西池カキツバタ群落保存対策調査委員会」が群落の調査を続け、小堤西池の貴重で豊かな自然環境の保護に努めている。
○花の見ごろ／5月の中・下旬

文化財は私たち祖先のすぐれた文化活動の所産であり、そのひとつひとつがその土地の歴史と風土の中で育てられたものです。

先人の手によって、長い年月のあいだ大切に守られてきた偉大な文化的遺産を正しく理解し、次の世代のためにその保存と活用に関心を持ちましょう。

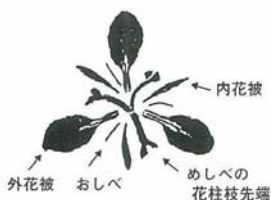
刈谷市教育委員会

生涯学習部文化振興課

〒448-8501 刈谷市東陽町1-1
TEL 0566-62-1037



アヤメ、ハナショウブ、カキツバタの区別点



アヤメ



生育適地 乾地(畑)

ハナショウブ・ノハナショウブ



湿地 乾地(畑)いずれにも適する

カキツバタ



湿地 浅水池